

エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

〔会報124号〕 2020.4.3

F G F 助成事業

ミャンマー イェジン農業大学を訪問して

筒木 潔

2、3年前にふらっとエゾリスの会の仲間に入れて頂いた筒木と申します。以前は畜大に勤めていて、土壌学を教えていました。野生動物のことや植物のことに関しては全くの素人ですが、自然に親しむことは好きですのでよろしくお願いします。

昨年に引き続き、今年の2月下旬から3月上旬にかけてJICAの専門家として2週間ミャンマーに行ってきました。行き先は首都ネピドーの東、約30kmのところにあるイェジン農業大学でした。ミャンマー唯一の農業大学の研究教育レベルの向上に貢献するための5年プロジェクトで、最後の2年分を担当しました。私の担当は土壌学と農業生産および気候変動に関する基礎的内容を講義と実習で教えることでした。受講生はイェジン農業大学の教員と院生および農業省の研究者たちでほとんどが女性でした。

私が滞在した季節は乾期で、気温も1年のうちでは低い期間なので土壌調査や旅行をするのには便利でしたが、草花が咲き誇り、市場に新鮮な果物があふれるのは6月から8月の間のようです。この頃は気温も高くなり、毎日土砂降りが続くので大変なようですが、ミャンマーの動植物や自然に興味のある人はこの季節にも訪れるべきでしょう。

JICAからの派遣なので用務の直前に赴任し、用務が済んだらすぐに帰国するスケジュールとなっており、自由に観光などをする日程はありませんでしたが、現地のプロジェクトスタッフのご配慮で今回は中間の土日祝日にシャン州への小旅行をさせて頂きました。受講生中の11名とコーディネーター、運転手および私の14名が参加する賑やかな旅行となりました。

現地の自然に接する機会は、朝晩の散歩やゲストハウスから大学オフィスまでの片道徒歩15分ほどの往復の間だけでしたし、ちょうど乾期で樹木や草花も休眠期にあるものが多かったので、多く

のものを紹介することはできませんが、見ることのできた範囲で紹介させていただきます。



図 1

図 2

図 1 の上 2 枚の写真は *Butea Monosperma* (Flame of the Forest、ハナモツヤクノキ) で、ちょうど花期にあたりあちこちで咲き誇っていました。花は染料になり、若木は緑肥になるなど有用な木です。下の 2 枚の写真は *Bombax ceiba* (Kapok tree、Red silk cotton tree、キワタ、中国では攀枝花) という大きな木です。花期は 12 月から 1 月とのことで、もうほとんど花が散ったあとでした。標高 1000m 以上のシャン州ではまだ花が咲いていました。その他の木としては、プルメリアの仲間も花盛りでした。

図 2 は大学キャンパスや農場内に咲いていた花で、左上は *Callistemon lanceolatus* (Bottle brush tree)、右上は *Nerium oleander* でキョウチクトウの仲間、左下は *Caesalpinia pulcherrima* (Pride of Barbados, Dwarf Poinciana)、右下は *Tabebuia chrysantha* (Golden tree) です。



図 3

図 4

図 3 の左上は白いキョウチクトウの花、右上はハイビスカス、左下はブーゲンビリア、右下は *Cassia bakeriana* (Pink cassia) です。図 4 の左上は *Calliandra tergemina emarginata* (Compact Red Powderpuff)、右上は *Catharanthus roseus* (ニチニチソウ)、左下は *Tabernaemontana cumingiana* (キョウチクトウ科サンユウカ)、右下は *Cassia fistula* (Golden rain tree, Golden shower) です。



図5

図6

鳥については、図5左上のように水田にはシラサギの仲間がたくさんいましたが名前はありませんでした。図5の右上と左下は *Pycnonotus cafer* (Red-vented Bulbul、シリアカヒヨドリ) でよく見かけました。図5の右下は *Merops orientalis* (Green Bee-eater、ミドリハチクイ) で、尾羽にさらに長い飾り羽が付いており優雅に飛んでいました。図6は全て *Acridotheres tristis* (Common Myna、インドハッカ) です。キャンパス内や圃場にたくさんいました。インドハッカはムクドリや九官鳥の仲間です。目の周りにマスクをしたような怖い顔をしています、性質も獐猛だそうで、他の野鳥や小動物の生息域を狭めているそうです。畑と林の境界域や人間の住む場所を好んで生息し、人間が捨てた生ゴミなども餌にしています。最近この鳥がオーストラリアまで拡散して、現地の在来種の野鳥に深刻な影響を及ぼしているため、外来種として駆除されているとのこと。もともとは害虫を食べさせるために導入したとのことなので、人間のわがままに過ぎません。リスもいましたが残念ながら写真に撮ることができませんでした。

いろいろ貴重で思い出深い体験をさせて頂きましたが、予定の分量を過ぎてしまいましたのでここで終わらせて頂きます。昨年度と今年度の旅行の思い出を私のホームページに載せてありますので、是非ご訪問下さい。下記のURLのうち、上段が2019年度、下段が2020年度の旅行記です。

http://timetraveler.html.xdomain.jp/special2019_yn.html#contents

http://timetraveler.html.xdomain.jp/special2020_yn.html#contents

ミャンマー連邦共和国



ミャンマー（黄色部分）
外務省ホームページより



『フィールドに出よう!』

今年も雪解けは、早いように感じます。帯広の森内では、エゾアカカエルの鳴き声と共に卵塊調査が始まります。エゾサンショウウオも負けずと産卵しています。



《エゾサンショウウオの卵囊 (らんのお)》

ザゼンソウ、アズマイチゲ、フクジュソウ等の林床植物も自己主張をしています。



《ザゼンソウ》

さあ、春の息吹を感じましょう!

編集後記

新型コロナウイルスの感染力が強く、収まる気配がまだ見えてきません。動物から人へ、人から人へと感染しているようですが、地球の中の人間は一握りです。自然界との付き合いを今一度考えることも必要です。 n. m

エゾリスの会 会報124号

発行日: 2020. 4. 3

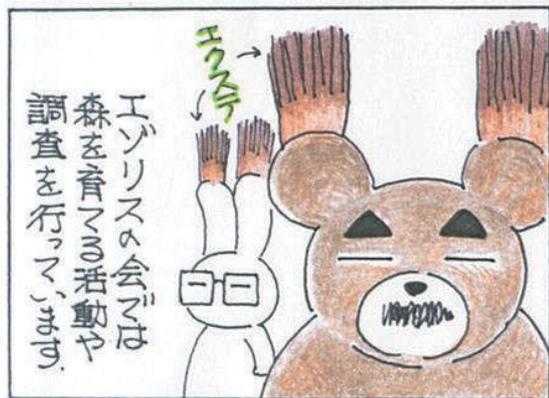
発行: エゾリスの会

〒080-0027 帯広市西 17 条南 3 丁目 6-14

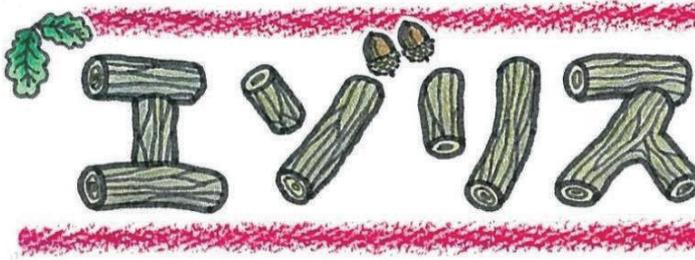
☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp

エゾリスの会 No.36



by T様



エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

【会報125号】 2020.06.10

F G F 助成事業

《帯広の森の観察小屋周辺が楽しいぞ》

2017年にF G Fの助成を受けて「里山つくろうプロジェクト」の活動地に移設したログハウスの観察小屋。移設地の周辺の景色にもなじみ、植物、鳥、動物たちからの市民権（いや、森林居住権かも？）を得ることができ、森の風景の一翼を担っています。



2018年に観察小屋外壁に設置した巣箱には、「シジュウカラ」が営巣中。親が幼虫のエサをくちばしに挟んで、巣箱に入ろうとしています。何羽のヒナが顔を見せるか楽しみです。



昨年は使用していなかったキツネの巣には、子ギツネが出入りし、人の目（私を）を気にせず人間（私を）を観察中。（親ギツネは周辺を警戒し、するどい眼光で侵入者を警戒）



足元に気を付けてくださいね。ベニバナイチヤクソウの可憐なつぼみが上目遣いで見えますよ。また、ベニバナイチヤクソウは菌従属栄養植物で森林と密接にかかわりながら生育しています。森林の程よく閉じた空間には、気品ある白さが際立っているオオバナノエンレイソウが咲き（5月頃）、7月末からは、立ち姿が美しいオオウバユリが迎えてくれます。

都市の身近にある森林へ出向いてみませんか。

総会報告：2020年度の総会が5月17日に帯広の森観察小屋前で行われ、事業報告、事業計画、予算、決算等原案のとおり承認されました。

2020年度事業計画

1. 自然と触れ合う事業

a) 自然観察会等 2回開催

第1回「帯広の森のチョウを見つけよう」 と き：2020年6月21日（日）

ところ：モニ1000チョウ調査区

第2回「足跡観察会」

と き：2020年12月20日（日）

ところ：森内、観察小屋

b) 動植物を考える他団体との連携

・園路沿いの池の泥上げ（協力） ・共同観察会の開催

・森づくり協議会に参加

2. 調査事業

a) エゾリス生息マップの作成（帯広市内）継続事業

シマリス情報の収集・道路横断の実態・緑ヶ丘公園の生息マップ作成

b) 帯広市委託調査（帯広の森の小動物の生息調査）

*エゾリス分布調査 調査月日： 「エゾリス・センサス」

5月17日（日） 6：30集合

10月4日（日） 6：30集合

集合場所：帯広の森・はぐく一む 駐車場

*チョウセンゴヨウ松の結実調査 帯広の森内（秋の調査時10月4日）

c) 表土まきだし調査（帯広の森） 手入れ

d) FGF 助成事業 助成額：180万円

・エリア1の里山林再生と利用 ・エリア2とエリア3の自然林の再生

・活動拠点整備事業 ・効果的な普及手法の検討 ・報告会

3. (財)日本自然保護協会主催の「モニタリングサイト1000」事業（2008年～）

帯広の森内で、鳥類調査、植物調査、チョウ類調査、哺乳類、カエル、

調査データを活用して、帯広の森管理プラン作成に利用する

4. エゾリスの会広報事業

a) 会報の発行 4回発行

b) エゾリスの会リーフレット作成

5. 里山をつくろうプロジェクト

・2020年6月から月1回

・間伐、草刈り等

6. 創立35周年（2021）記念誌の発行（資料収集）1986年（S61年4月）発足

7. ログハウス修繕基金の設立：帯広の森での活動を停止した時に、ログハウスを解体して、現状復帰しなければならないことから、基金を設けて修繕費や解体費に充てる。基金額：80万円

会費の納入についてのお願い

2020年度の会費の納入を受付けておりますので、よろしくお願ひいたします。

当会は、皆様の貴重な会費で運営しておりますので、なるべく早い機会に収めていただければ幸いです。
 〈封筒のお名前の下の番号が納めていただいている年度です。〉

例：19Aは2019年度個人会員、19Bは2019年度家族会員、19Cは2019年度賛助会員です。

- 【会員規定】
1. 会費を納入することによりエゾリスの会会員となる。
 2. 会員となることにより、優先的に会の事業への参加、備品の使用が行える。
 3. 2年間会費を納入しなければ退会したものとみなす。

【会費区分】 *個人会員 (A) 500円 *家族会員 (B) 1,000円
 *賛助会員 (C) 1,000円 (1口) 何口でも結構です。

【納入方法】 ・十勝・帯広の方は、同封致しました振込み用紙により帯広信用金庫本支店から
 振り込んでいただきますと手数料が無料となりますのでご利用ください。
 ・郵便局からは、郵便振替でお願い致します (手数料はご負担願ひます)。
 振替口座番号：02710-5-4616 振替口座名：エゾリスの会

2020年度収支予算書

単位：円

	19年度決算額	20年度予算額	増 減	備 考
収入の部	1,595,241	1,091,000	△ 504,241	
支出の部	149,051	1,091,000	941,949	
次年度繰越金	1,446,190	0		

ログハウス修繕基金(2020年設立)800,000円 次年度繰越金1,446,190-800,000=646,190円

収入の部				
科 目	19年度決算額	20年度予算額	増 減	備 考
1 会費	27,500	31,000	3,500	会員数42名
個人会員	13,500	15,000	1,500	30名
家族会員	8,000	10,000	2,000	10名
賛助会員	6,000	6,000	0	2会員
2 受託料	305,254	300,000	△ 5,254	帯広市
3 事業収入	0	2,000	2,000	観察会参加費
4 雑収入	3,513	1,810	△ 1,703	前年度会費、寄付金、利息等
5 繰越金	1,105,236	646,190	△ 459,046	
6 繰入金	100,000	100,000	0	モニ1000会計より
7 補助金等	53,738	10,000	△ 43,738	
総 額	1,595,241	1,091,000	△ 504,241	
* 預り金	10,500	0	△ 10,500	前納会費

単位：円

支出の部				
科目	19年度決算額	20年度予算額	増 減	備 考
1 事務費	71,472	160,000	88,528	
消耗品費	25,876	50,000	24,124	コピー代、ラベル用紙、封筒等
写真プリント費	0	10,000	10,000	記録用
通信費	34,192	40,000	5,808	会報郵送費、切手、はがき
会議費	11,404	60,000	48,596	総会費、例会費
2 事業費	42,338	470,000	427,662	
印刷費	0	250,000	250,000	会報印刷費(カラー)4回発行
観察会費	0	30,000	30,000	保険料、資料等
パネル制作費	0	30,000	30,000	写真パネル等
他団体活動費	2,500	10,000	7,500	百年記念館友の会会費等
里山P費	39,838	150,000	110,162	保険料、資材費、チラシ印刷
3 調査費	18,989	150,000	131,011	
機器購入費	0	100,000	100,000	調査機器等
報告書作成費	12,400	30,000	17,600	印刷費等
調査費	6,589	20,000	13,411	調査関係費、資材費等
4 雑費	0	50,000	50,000	手数料等、
5 予備費	16,252	106,000	89,748	
6 広報活動費	0	150,000	150,000	リーフレット作成費、ホームページ関連費
7 前払い費	0	5,000	5,000	
総 額	149,051	1,091,000	941,949	

里山プロジェクト費収支予算書(里山P費内訳)

科目	19年度決算額	20年度予算額	増 減	備 考
保険料	34,838	60,000	25,162	
資材購入費	5,000	30,000	25,000	土壌改良材、のこぎり替刃等
印刷費	0	20,000	20,000	チラシ印刷
会場借上費	0	10,000	10,000	新年会等会場費
雑費	0	30,000	30,000	調査員軽食等
合 計	39,838	150,000	110,162	

『モニ 1000 チョウ調査、
オープンディ』

帯広の森では、モニタリングサイト
1000 里地調査が 4 月のエゾアカガエル
に始まり、植物、チョウ、鳥、哺乳類と調
査が進められていきます。

その中の「チョウ」の調査を一緒に行いま
せんか。捕虫網で捕獲し、種類を調べ観察
して放します。チョウの美しさに感動！

日 時：2020 年 6 月 21 日（日）

集合場所：帯広の森里山活動地

（行事予定表の地図参照）

集合時間：午前 9 時

（午前 11 時 30 分頃解散）

申込：三日市 電話 0155-33-4223

締め切り：6 月 17 日



編集後記

新型コロナウイルス感染防止のため、総会は観察小屋周辺の屋外で行いました。森の空気の匂い、鳥のさえずり、太陽の温もり、一時、森の外の出来事を忘れることができました。n.m

エゾリスの会 会報125号

発行日：2020. 06. 10

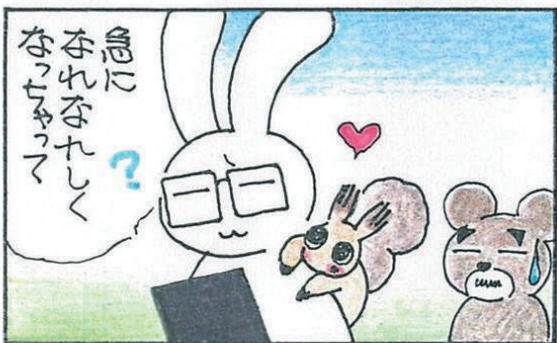
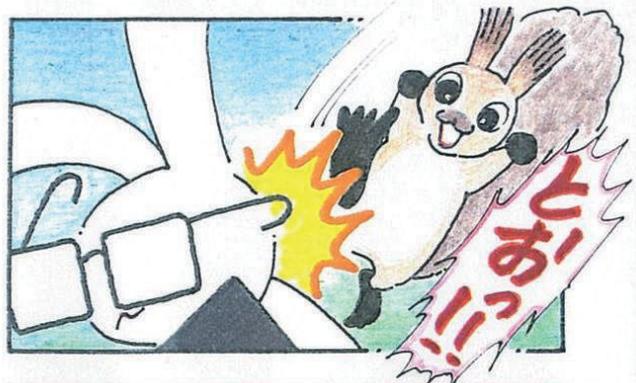
発行：エゾリスの会

〒080-0027 帯広市西 17 条南 3 丁目 6-14

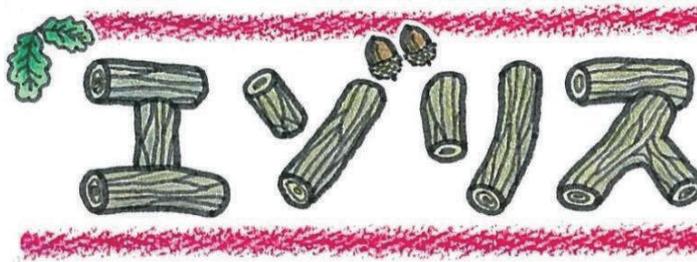
☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp

裏
エゾリスの会 No. 37



by 7男



エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

〔会報126号〕 2020.09.08

F G F 助成事業

帯広の森のこれから

§1 帯広の森とは（復習）

「帯広の森」は帯広市が1970年代に構想し、1975年から造成を開始した都市公園である。帯広市街地の南西部に位置し、総面積が406.5ha、幅が約550m、総延長が約11km、十勝川や札内川の河畔林とつながることにより、帯広の市街地を包み込む緑のベルトとなっている（以下、帯広市都市環境部みどりの課「市民参加の森づくり～帯広の森について～」をもとに作成）。



「帯広の森」の位置 帯広市ウェブサイトより

「帯広の森」構想は、第5代帯広市長吉村博がオーストリアの『ウイーンの森』に出会ったことを契機として、1971年の第2期帯広市総合計画に位置づけられ、1975年から造成と植樹祭が始まった。都市部への人口や産業の過度な集中が進むことによる宅地の郊外部への無秩序な延伸（スプロール化）を防ぎ、都市林のもつ生物生息環境、市民の余暇利用等快適な都市環境を確保することを目的として計画され造成されている。

帯広の森市民植樹祭は、「市民の立場で積極的に森づくりを推進しよう」という市民有志の市民植樹祭実行委員会と帯広市の共催（第2回植樹祭以降）によるもので、2004年まで30回実施された。その間に132.9haを対象に植樹が行われ、参加した延べ人数は148,500人、針葉樹13種75,600本、広葉樹42種類154,000本、合計約230,000本の樹木が植えられた。

市民植樹祭が軌道に乗り約15年が過ぎると、成長してきた植栽木の手入れをするため1991年から「帯広の森市民育樹祭」が開催され、2005年までの15年間に81.1haを対象に約13,000人が参加して育樹作

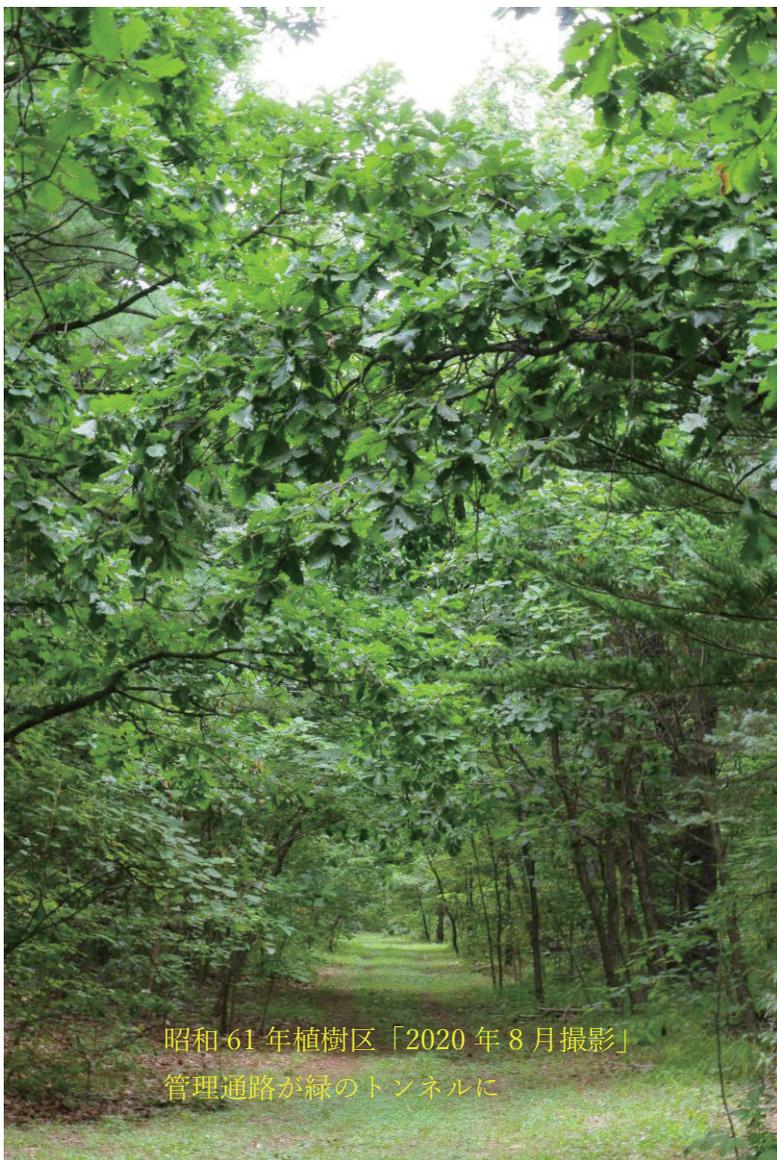
業が行われ、約 49,000 本の樹木を間伐した。帯広市では市民団体の活動を促し支援するために、2006 年に「市民団体による帯広の森づくり活動の促進及び支援に関する要綱」を制定し、市民協働による森づくりを実践する環境づくりを進めている。

造成開始から 40 年が経って森林らしい景観がみられるようになってきたことから、現在は育成管理・利活用に軸足を移し、その拠点施設として 2010 年 4 月に「帯広の森・はぐくむ」が開館している。

§ 2 現在の帯広の森

帯広の森の造成は、造成計画により基本的に郷土種を植樹することとなっているが、苗の調達面の要因により、外来種が植樹されている。また林床には牧草種や外来種のオオアワダチソウが繁茂する傾向がある。外来種の樹木はブロックによっては大規模に植樹されており、チョウセンゴヨウマツについては、種子生産を行うほどに成長している。

帯広の森は、針葉樹を植樹した植樹区で林床が暗く、林床植生が育っていない状況が確認されている。また、広葉樹植樹地でも、自然林と比較すると林床の種組成は大きく異なり、植樹区の確認種は少なく、



昭和 61 年植樹区「2020 年 8 月撮影」
管理通路が緑のトンネルに

多様性が低い傾向が見られる。またこれらは、植樹後 30 年以上が経過した植樹地でも同様の傾向であり、オオアワダチソウといった外来種の繁茂や種の供給源不足等の要因が、このような状態を長引かせている可能性もある。林床植生の発達には、多くの動物の生息にとっても重要な要素であり、適切な管理のもと、林床植生の充実、回復を促進する必要がある。林床植生の回復の手段として間伐の効果が知られており、間伐により林床植生が改善され、新たな種の侵入、定着が促進される。

§ 3 帯広の森を「森」にするために

帯広の森は、森らしい景観に見えてきているが、自然林が有する多様な生物相（特に林床）に比べて、今も著しく単調である。人工的に造成された森林では、待ってるだけでは林床植生の多様性は復元されないことを示している。

帯広の森で今後向上が期待されるのは、地域本来の生物多様性を保全・育成する機能である。そのために、できるだけ正確に現状の「診断」を行い、今後 10～20

年において必要な「処方」を考えることが求められている。

エゾリスの会では2016年からF G F 富士フィルムグリーンファンドの助成を受けて、この難しい課題に対して、実験や植栽等を試みており、いくつかのヒントやきっかけが得られた。このことから、得られた実体験、モニタリングデータ等を発信し、帯広の森の理念である市民参加型の森づくりを加速させていければと考えている。

また、2ページの写真の昭和61年植樹区内の通路のように、樹冠が閉じた心地よい森も出現してきていますので、ぜひ一度足を運んでいただければと思います。

まずは、これから始めよう

* 林床植生のモニタリング

* 自然林固有種の育成、植樹

* 外来樹種の抜き取り



👉 山引苗の植え付け



在来植物の播種・育成



👉 林床植生のモニタリング

『オガサワラシジミ絶滅か』

多摩動物公園と環境省新宿御苑で人工増殖のため飼育されていた、「絶滅危惧 1 A類、日本固有種のオガサワラシジミ」の幼虫や成虫全ての個体が8月25日に死亡した。このチョウは、小笠原諸島の父島や母島で多数生息していたが、人為的に導入された外来種のトカゲ「グリーンアノール」による捕食の影響等により、父島では1980年代前半に激減し、1992年以降生息が確認されていない。また、母島でも少数が確認されていたが、2020年7月に個体確認を行った時には、確認することができなかった。

動物や植物等の外来種による固有種の絶滅の危険は、時間を経て影響が現れます。将来に禍根を残さないように、欲望だけの行動は厳に慎まなければ。



多摩動物公園HPより

編集後記

今号では、当会のフィールドの帯広の森について掲載しました。NHK「さわやか自然百景」で帯広の森について放映されます。9月13日午前7時45分からです。ご覧ください！ n.m

エゾリスの会 会報126号

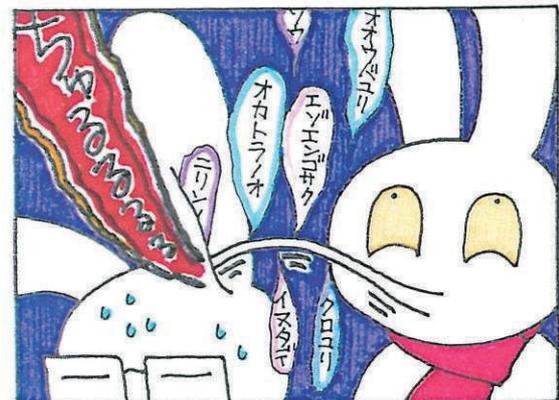
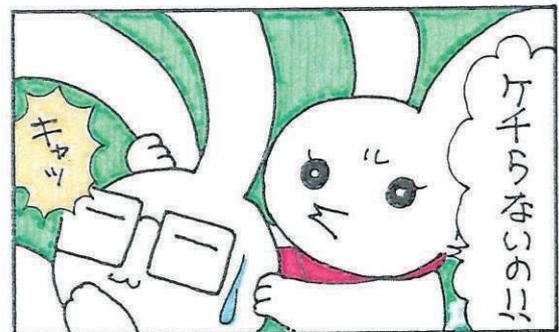
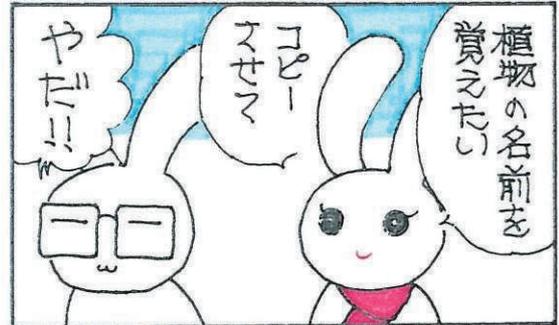
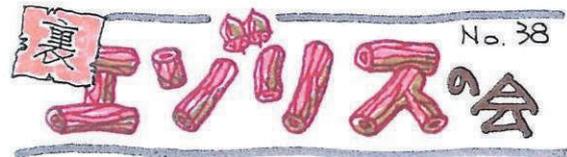
発行日：2020. 09. 08

発行：エゾリスの会

〒080-0027 帯広市西17条南3丁目6-14

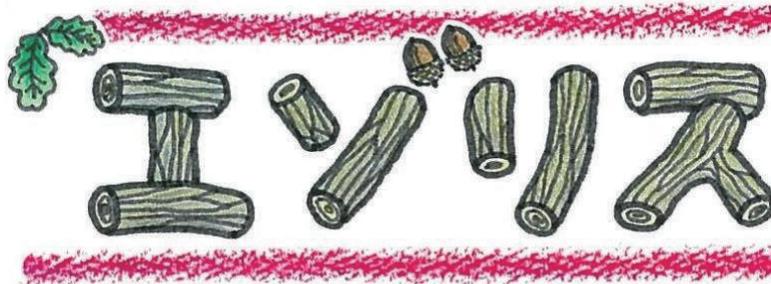
☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp



by おはぎ71号

【会報127号】2020.12.30



エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

FGF 助成事業



帯広の森レポート「ひとと生きもの楽しく集う森へ」を12月20日とかちプラザ視聴覚室で開催しました。



丹羽さんの報告に聞き入っています

この催しは、FGF 助成事業が今年度で終了することから、4年間の活動事業の報告と当会の既存の活動とをシンクロさせ、これからの帯広の森づくりの道標となることを目的としています。

当日は、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、40数名の方々に参加いただき会場との意見交換も行われ有意義な時間を共有できました。

会場後方には、当会の活動のパネル写真の
プロムナードを配置



**「エゾリスの会ですが
りすだけじゃありません」**

会員の伊藤育子さんが、
会の活動を紹介

- ・ 里山づくりプロジェクト
- ・ モニタリングサイト1000
- ・ 帯広の森内の小動物生息調査
- ・ 観察会

今日のメインゲスト

さっぽろ自然調査館の丹羽真一さん
FGF 助成事業の報告です。

**「調査から見た帯広の森の現在地と
課題克服のためのチャレンジ」**

まとめの一部

《植樹林(高木層~低木層)は生物多様性
の「入れ物」(容器)の側面が強く、
生物多様性の“本丸”は林床にある》



休憩をはさみ

みんなで話そう！

「調べる、はたらく、たのしい」

- ⇐ MCの池田亨嘉さんとステージ上の
- ↓ 加藤さん、丹羽さん、伊藤さん



会場の方と質疑応答



終了後、会員と
(笑顔が美しい?)

**参加いただきました
皆様ありがとうございました**

『しれとこ 100㎡運動と帯広の森造成との類似点』

12月20日に開催したエゾリスの会発表会（帯広の森レポート）で、さっぽろ自然調査館の丹羽さんに FGF 助成事業の報告をいただきました。その中で、しれとこ 100㎡運動と帯広の森造成との比較を説明。下記はスライドから抜粋

- 同時代にスタート（先駆的・長期継続的な取り組み）
- 目的は乱開発の阻止（土地投機/都市のスプロール化）
- 森づくりの規模が大きい（知床は860ha）
- 農地だった場所を森林に戻す
- 初期に外来の針葉樹（知床はアカエゾマツ）を大量に植栽した
- 目標は造林でなく自然再生（生物多様性の保全）
- 行政主導で市民を巻き込む
- 息の長い取り組みをどうつないでいくか、担い手の育成という課題

世界遺産の保全・再生 VS 身近な自然の再生の代表例 「注目度アップ」

納得すると同時に、同じ土俵で戦えるよう頑張らねば！！

編集後記 ホームページを作成しました。下記 QR コードです。
マスクが必需品ですが、たまにはマスクを外し、おいしい空気を吸いに帯広の森へ（人と人との距離はとりながら）

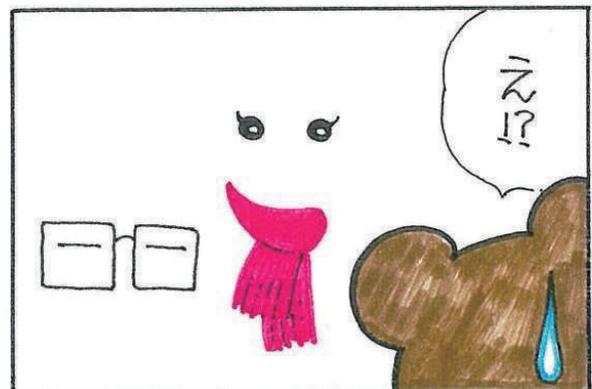
n.m

エゾリスの会 会報127号

発行日：2020. 12. 30
発行：エゾリスの会
HP ezorisunokai.jp
〒080-0027
帯広市西 17 条南 3 丁目 6-14
☎0155-33-4223
E-mail info@ezorisunokai.jp



裏エゾリスの会 No.39



by 71号